

行仙岳奥駈道の巡回整備(段差補修)

◇実施日：2020年4月30日(木) 晴

◇参加者：沖崎吉信、大江加予子・徳子、畑林清子、生熊敏男・千満子、中前偉、濱野兼吉、高階美根子、竹中卓治
山川治雄、小久保好夫、宮本淑子、梶野照雄、志岐敬
森武史(カメラマン)

16名



登山開始

川島前代表の慰霊

行仙小屋で出発準備

下北山村役場の駐車場に集合。平日なので参加者の確認だけで補給路に向かう。

それぞれモノレールに荷物を積み込み、本日の作業の指示が沖崎代表より行われた。最初に熊野修験の写真を撮り続けている森さんが、今回「山彦」の活動も9月に出版する熊野修験写真集に入れたいとのことで取材に見えた。

本日の作業は行仙岳の奥駈道の段差が霜柱によって支柱が浮い

ているので、それを安全に通れるよう整備する。山彦は労災がないのでくれぐれも無理をしないで安全にとの説明を受ける。梶野さんはモノレールを運転し。他の者はとりあえず川島さんの急逝現場まで登り、中前行者の勤行で線香をあげる。モノレールの終点でそれぞれ、補修用の材木や機材を各人に振り分けて荷揚げする。ここで等間隔に隊列を整え、森さんの撮影に撮影に協力する。途中から伐採された雑木を薪用に一本ずつ持って小屋まであがる。



鉄杭を運ぶ



段差補修作業



佐田辻は珍しく風もなく非常に暖かい。玄関の寒暖計は17℃。早速記念撮影をして、大小の杭、作業用の手箕、玄翁、小槌、鋤簾、トンガ等を持って行仙岳に向かう。

生熊敏男さんは、小屋に残り道具小屋の整理をする。

捲き道との分岐に集合。行仙岳に登り金杭を抜いて段差に利用するため、3名が山頂経由で、その他の者は捲き道を通じて奥駈道との合流地点から下の段差の補修にかかる。

浮き上がった段差の支柱を玄翁で打ち込み、栈木を添え石と土を入れ固める。作業はこれの繰り返しである。打ち込む杭は場所によって、鉄の支柱であったり木製であったりするが、人数が多

いので案外簡単に仕上がっていく。順調良く捗り、一段落したところでは昼食となる。



補修後の奥駈道

日だまりでの昼食は風もなく快適、それぞれ差し入れられたお菓子やチョコレートにコーヒーも出て寛ぐ。釈迦岳、孔雀岳、奥八人岳、中八人岳等の眺めが素晴らしく、穏やかなひとときを過ごした。

午後からは、山頂に向けての段差の補修を行い。本日の作業は終了。行仙岳山頂で記念撮影を行い行仙小屋に向け下った。

梶野さんが、背の高い人には頭がつかえて邪魔な雑木を伐採。途中、道の脇に金剛童子を刻んだ石を見つかる。沖崎さんに聞けば奥駈道に七つありその一つだそうで、まだいくつかは見つからないとのこと。

小屋では、大江、高階さんがミヤマシキミを採り、お堂に供える。今朝運び上げた伐採木をチェーンソーで小切って、乾燥させるために積み上げ、道具もそれぞれ小屋に収納し本日の作業は終了。

今日は午前中、縦走中の若者一人に出会った。玉置山まで行くとのこと。今年はコロナ禍で玉置神社での宿泊はできず、駐車場

でのテント泊になるので、早く着くように伝える。



本日の参加者

櫛をお堂に

小屋利用の注意を掲示

今年のゴールデンウィークは小屋の宿泊予約もなく、小屋番の当番もなくなりましたが、今日の作業で奥駈道の整備も一段落した。例年ならのぼり旗を立て宿泊者を迎える準備をするのだが、今年²は奥村さんの鯉のぼりだけの寂しい連休となりそうだ。

南奥駈道の整備が終わり春山登山、春の峯入りの本番を迎えるが、今年は登山も自粛のお触れが出るご時世。山は逃げないから待つこと、堪えることも大切な登山の心得の一つであることを改めて認識する。

(記：濱野、写真：梶野)

行動タイム

09:00 補給路登山口 09:12 ↓ 行仙宿 10:15 ↓ 10:50 行仙岳南 ↓
11:05 行仙岳北 ↓ 12:55 行仙岳 ↓ 13:30 行仙宿 14:07 ↓ 14:50 補給路登山口